



第4章

水道事業の見通し

A decorative horizontal graphic consisting of several overlapping, wavy lines in shades of light blue and green, creating a sense of movement and depth.

第4章 水道事業の見通し

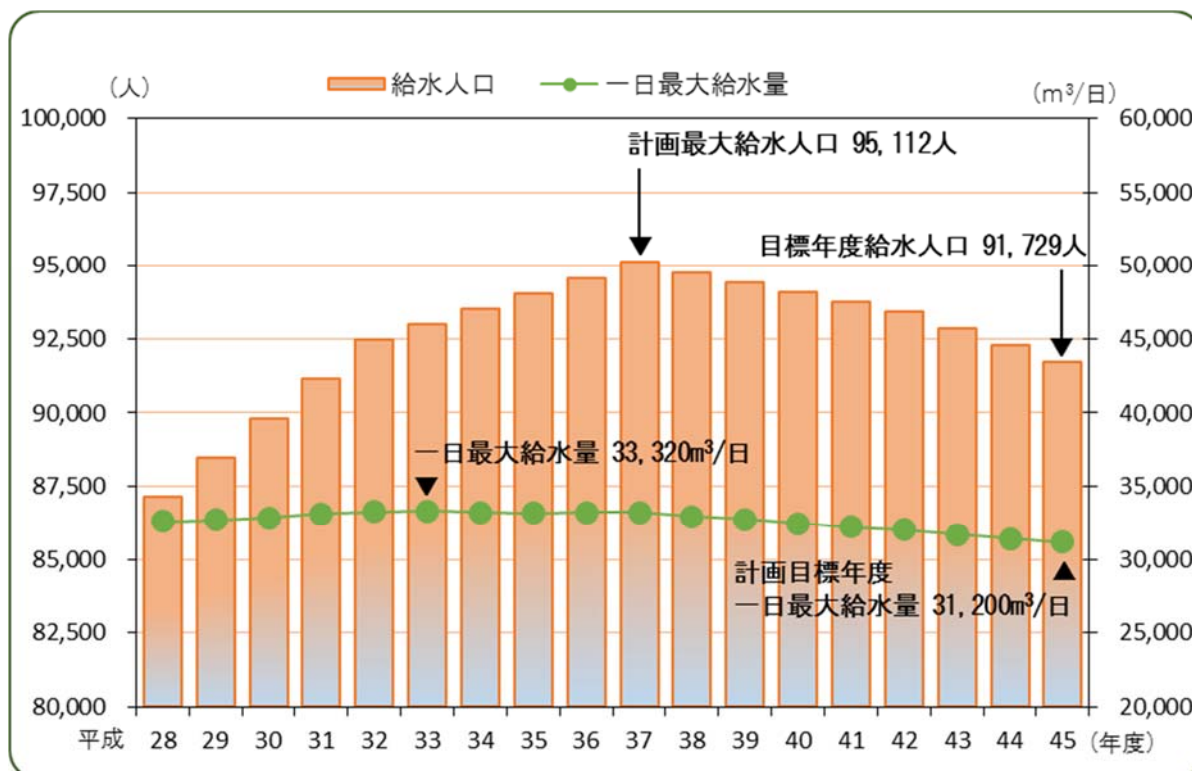
1. 給水人口・給水量

将来の本市水道の事業を見通すため、計画給水人口と計画一日最大給水量の推計を行いました。

その結果、給水人口は平成 37 年度をピークに 95,112 人まで増加し、その後緩やかに減少する見込みとなりました。

一方、施設計画の基本となる一日最大給水量は、平成 33 年度に 33,320 m^3 /日となりますが、工場用および業務・営業用水量の減少が大きいことから、その後減少傾向となり、平成 45 年度には 31,200 m^3 /日まで減少する推計結果となりました。

給水人口・一日最大給水量の推計



2. 施設の効率性

本市では、前回ビジョンに基づき、一日最大給水量を 37,750m³として、中央浄水場の配水施設の更新などを行ってきました。

将来的には、更に給水量の減少が見込まれることから、現状を維持した規模での更新では、施設の利用率が低下するなど、施設の効率性に懸念が生じます。

今後の施設の更新にあたっては、施設の効率性を見据え、適切な規模の施設更新が必要です。

計画時の推計値比較表

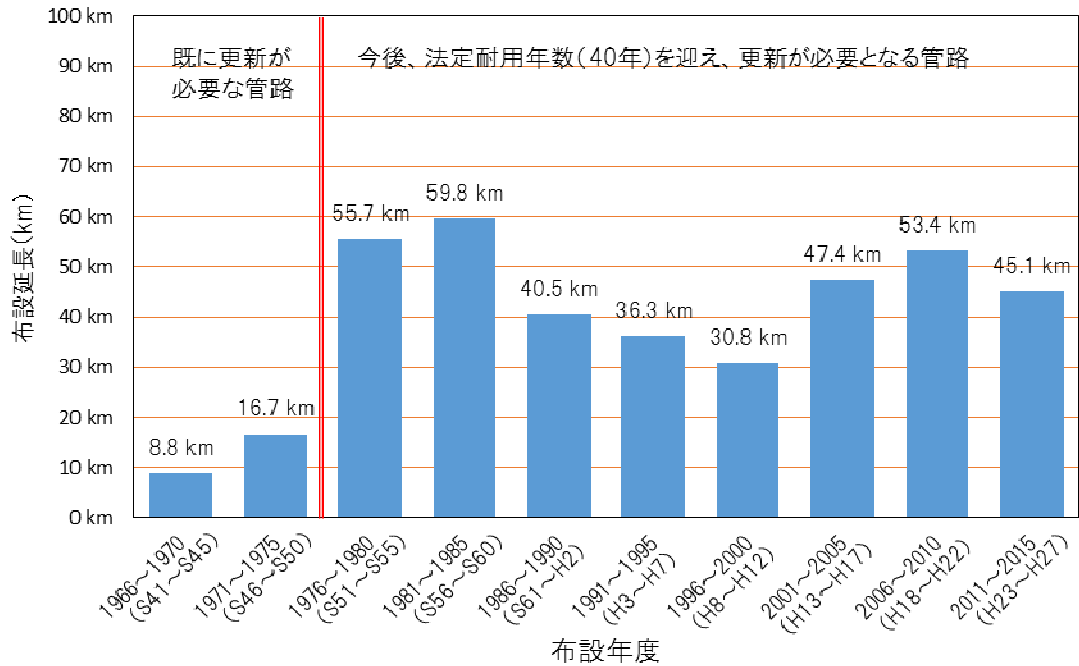
項目	計画時	今回推計値		
	前回ビジョン	H33年度 一日最大給水量	H37年度 最大給水人口	H45年度
給水人口	91,020 人	92,996 人	95,112 人	91,729 人
一日平均給水量	31,370 m ³ /日	29,070 m ³ /日	28,980 m ³ /日	27,220 m ³ /日
一日最大給水量	37,750 m ³ /日	33,320 m ³ /日	33,210 m ³ /日	31,200 m ³ /日

3. 施設の老朽化

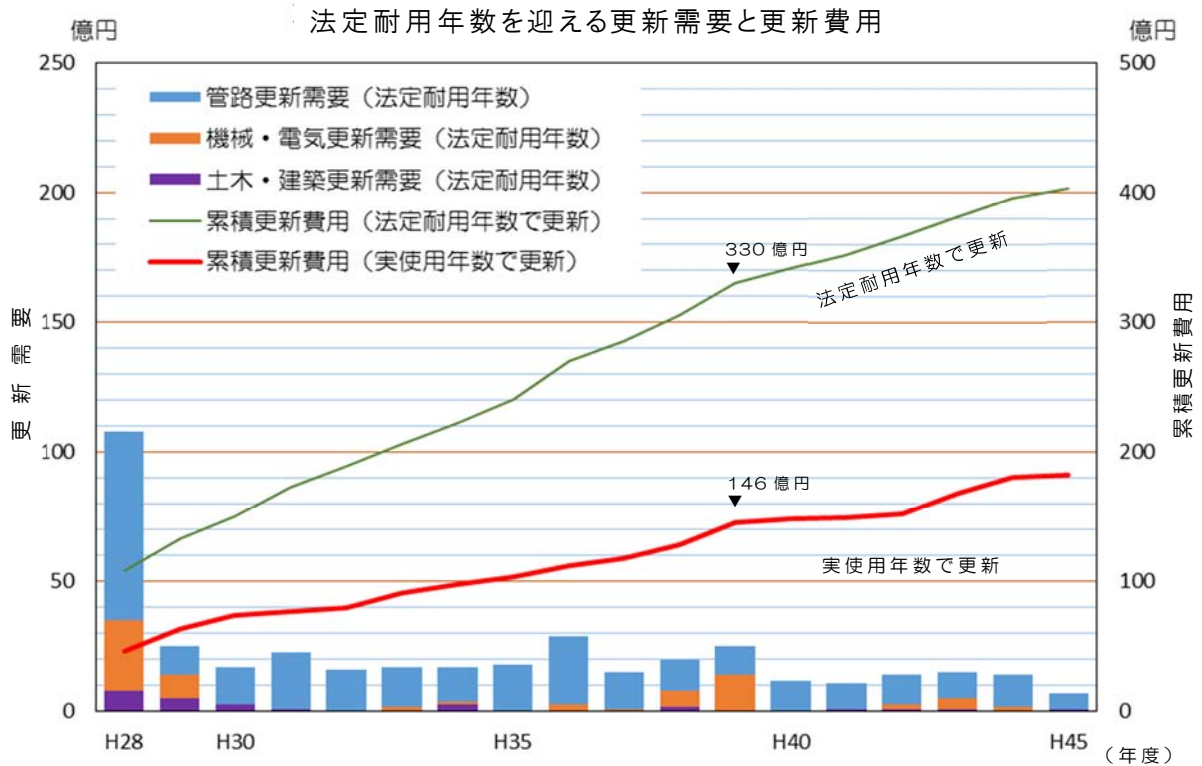
老朽化の状況を業務指標から見ると、平成 27 年度末の経年化管路率では 8.6%、また経年化設備率では 57.1%となり、前回ビジョンの目標値より改善が必要な数値となっています。

また、アセットマネジメント手法による検証では、特に法定耐用年数で計画的に更新を行った場合には、直近の 10 年間(平成 39 年度まで)で約 330 億円、また使用実績などから更新期間を平準化しても、直近の 10 年間で約 146 億円の更新費用が見込まれる結果となり、老朽化に伴い、短期間に多額の更新費用が必要な状況となっています。

布設年度別配管布設延長



注)人口増加に伴う水需要の増大に対応するため、昭和51年度から第3次拡張事業を開始。配管整備を進めたことにより、急激に配管延長が増加しています。



注)平成28年度の更新需要は、平成27年度末において、既に法定耐用年数を超過している管路、施設が含まれているため、突出した更新需要となっています。